

「Developers Summit 2013」参加報告

原 祐一

工学系技術支援室 情報通信技術系

はじめに

2012年までの10回を節目に終了するプロジェクトであった「Developers Summit」が、「Action!」というテーマで、デブサミ第2章としてリスタートし、今年も開催されることとなった。腕に覚えのある技術者の公演を聴講することで、今後の情報技術の流れを掴み、技術職員として磨くべき技術、習得すべき技術を調査し、今後の業務に役立てることを目的に参加したので、下記に報告します。

1. 「Developers Summit」について

厳しい経営環境の中、新卒以外に対して、継続的に教育や研修を行うことが困難となっている。技術者が技術を磨くためには、独自で知識やスキルを上達させる必要がある。このような環境の中で、技術者同士のコミュニティの場を与えることをコンセプトに、約10年前、「Developers Summit」が開始され、今まで開催されてきた。

2. セッション概要

平成25年2月14日～15日（10:00～19:10）の2日間の日程で開催された。

セッションの形式は、事前申込制で、74のセッションが行われた。

各セッションは、5つの会場で同時進行する形をとっている。

1つのセッションは、45分または50分、「開発プロセス」「Web Technology」「Mobile Technology」「Cloud Development」「Design」「Architecture」などのテーマで講演された。※スケジュール等については、固有名詞を含む項目があり、転載の許可を得ていないことから、省略します。

3. 講演聴講内容

各講演を聴講した全体的な感想は、新しい技術の登場はなく、2012年までの技術を磨いて、成熟度を高めたという印象を受けた。各セッションも偏りがなく、各テーマが準備されていた。

また、今回は、「エンタープライズ」「ソーシャル」「スタートアップ」と、セッション毎にセッションの傾向を掴める情報が追加されたことは、聴講するセッションを決める上で、とても有難かった。

セッションの中には、技術的な紹介だけでなく、組織としての動向報告的なものもあり、どのようにして、従業員の技術を伸ばし、モチベーション向上をはかっているかを聞いたことは、とても良かったと思う。

開発手法分野において、セッションで聞いたアジャイル開発手法を、すべて技術部で真似することは出来ないが、部分的であれば、取り入れることも可能ではないかと思う。現在、

行っている開発手法も、改善の余地があると思えたことは、収穫であった。

技術に関するセッションを聴講して、結果が同じでも、そこにたどり着く過程（技術）は複数あると感じた。1つの技術に縛られるのではなく、その業務を行うために、どの技術が最適であるかを選択できるようになることも、必要な技術であると実感した。

4. まとめ

デブサミに参加することで、既存の技術であっても、常に進歩していることを改めて感じた。特に IT の分野は移り変わりが早いので、日々の自己研鑽や情報収集を怠ることは出来ない、当たり前なことの重要性を再確認した。

また、デブサミの講演者のように、10年後でも活躍できる意識を持ちながら、日常業務をこなすように、心掛けていきたいと思う。

5. 謝辞

今回、デブサミに参加する機会を与えて下さった、工学研究科技術部関係者、その他関係の方々に心から感謝いたします。

以上